

だいでん

今月号は「なかなか減らない医療費」です

保健福祉課
住民生活課



日々の生活に病気やケガはつきもの。具合が悪くなれば当然病院で診察を受けお薬もらって、自宅で療養。通常は国民健康保険が7割支払い、本人が3割支払いますが、長期入院、手術とかなると3割分も相当な金額となり、そこで高額医療というのが助けてくれます。誠によくできた制度です。しかしながらこの制度を維持していくためには増大する医療費を抑えるのが急務です。今月のだいでんは国民健康保険の医療費について書いてみました。

錦江町の国民健康保険の状況を見てもとと被保険者は毎年200人くらいのペースで減少しています。右のグラフをご覧ください。茶色の折れ線が被保険者数です。20年度3,839人だったのが25年度は3,061人になっています。減少の主要因は後期高齢者医療（75歳以上が加入する医療制度）へ移行していくからです。

被保険者数は激減していますが、医療費はほとんど変わりません。紫の棒グラフです。おおよそ11億円超えです。そこで65歳～74歳の前期高齢者数の変化をみてみますと1,296人から956人とこちらも少し減っていますが医療費についてはむしろ上昇しています。青の棒グラフです。前期高齢者の医療費が全体の半分を占めています。医療費抑制は前期高齢者の医療費を抑えることで全体を押さえることが出来そうです。

では下の図1の年齢別の人口をみてみましょう。高齢化の典型的な人口構成です。頭が重くて倒れそうですが、男女ともに60歳辺りから急激に増えているのがわかります。いわゆる団塊の世代です。現在は前期高齢者数はどちらかというとい少ない方です。今後この団塊の世代が前期高齢者へ突入してきます。医療費増大は否めないとこころだと思えます。どんなに健康で元気な人でも寄る年波には勝てません。誰でも65歳くらいから何かしら体の異常が出てきて病院のお世話にならずにはいられなくなります。

さて今日のお話は病院にかかるなということではありません。病気になったら、いやむしろ前に早目に受診して治療をしていただきたいということです。そのためには町で実施している基本健診や各種ドックを受けていただき早期発見、早期治療に努めていただきたいと思えます。

先にも書きましたが誰でも加齢による病気の発症は否めません。しかし、若いうちから予防していれば少しでも発症を押さえたり症状を緩和できるはずで。そのことがとりもなおさず医療費抑制につながります。

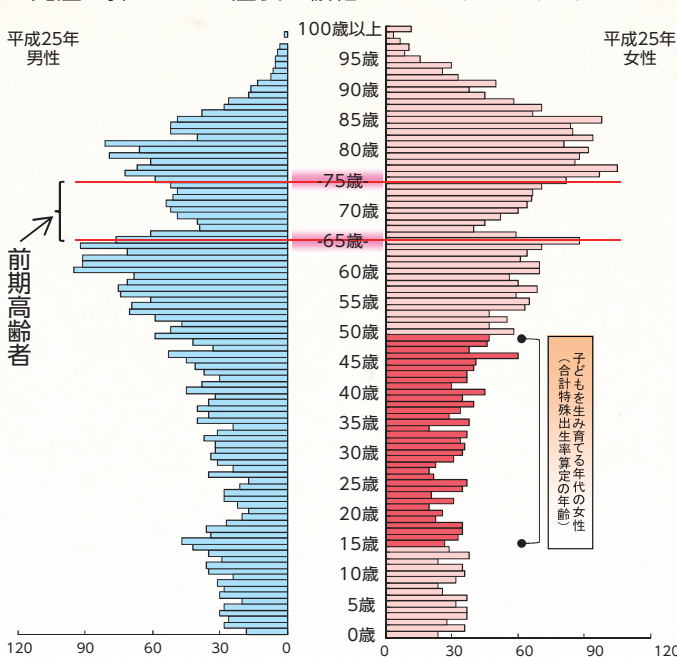
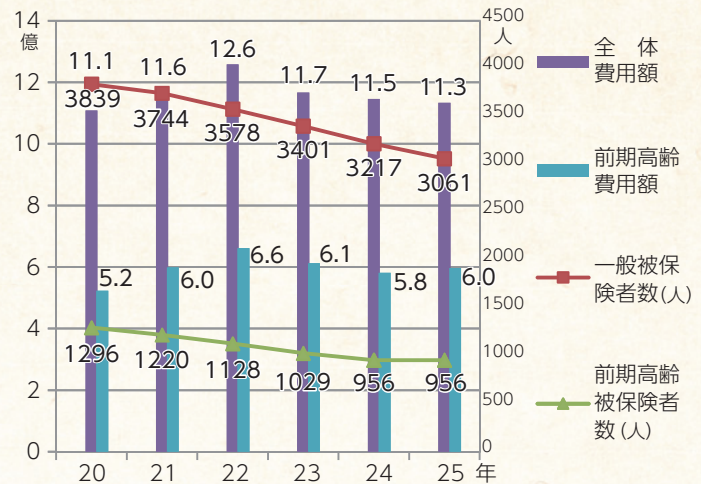


図1 年齢別による人口構造 (錦江町全体)



毎年町が行っている基本健診や各種ガン検診でも4～6名の方にガンなどが見つかっています。「健診を受けてよかった。」という言葉が掛けていただけます。私共も本当によかったとうれしく思います。発見が遅れば助かる命も助からなくなってきます。特に若い世代は細胞分裂も活発ですからガンなどの進行も早いのです。大きな病気をされた方の過去の健診受診状況を見てみると圧倒的に健診を受けていない方が多いようです。どうも無いと思っけていてもある日突然大病を患うこととなります。大病をすると膨大な医療費を使うこととなります。今一度ご自分の健康や健診受診について振り返ってみてください。

最後にもう一度左の図をご覧ください。若者に支えてもらうことはできそうにありません。ひょっとすると高齢者が若者を支えてあげないといけないかも。早目の適正受診で医療費を抑え元気な高齢化の町にしましょう。